

学校関係者評価 報告書

対象期間:2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

学校法人:早稲田大学

早稲田大学芸術学校

目 次

1. 評価実施の概要	2
2. 評価結果	3
1. 学校の教育理念(AA Idea)	4
2. 学校評価の基本方針	4
3. 学校の重点目標	4
4. 評価項目	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	5
(2) 学校運営	7
(3) 教育活動	
① 目標の設定等	9
② 教育方法・評価等	10
③ 資格試験	12
④ 教職員	13
(4) 学修成果	14
(5) 学生支援	15
(6) 教育環境	17
(7) 学生の受入れ募集	18
(8) 法令等の遵守	19
(9) 社会貢献・地域貢献	20
(10) 国際交流	21

2019 年度 早稲田大学芸術学校 学校関係者評価報告書

1. 評価実施の概要

評価目的：「早稲田大学芸術学校 2019 年度 自己評価報告書」を対象とした学校関係者評価委員による外部評価

評価実施者：学校関係者評価委員会

実施日時：2020 年 6 月 11 日～16 日

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、メールを用いた持ち回り審議により実施

学校関係者評価委員：

種別	所属	役職名	氏名	備考
学識経験者	早稲田大学 人間科学学術院	教授	加藤 麻樹	本委員会委員長
関係業界	建築家、 神奈川大学、 元本校非常勤講師	教授	石田 敏明	本委員会副委員長
専修学校団体・ 関係団体	稲芽会、 株式会社竹中工務店 東 京本店プロダクト部	副理事長	田中 茂	

(敬称略)

評価の方法

2020年6月5日から8日にかけて新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によりメールを用いた持ち回り審議により実施された本校自己評価委員会において承認された「2019年度 自己評価報告書」を各委員に送付し、評価項目ごとに1（不適切）2（やや不適切）3（ほぼ適切）4（適切）に評価してもらい、評価表を返送していただいた。その平均値（小数点以下第2位を四捨五入）をとったものを最終評価とし、また意見の記述についても取りまとめた。その結果は以下のとおりである。

2. 評価結果

総評

社会に確実にある“向学心のある人材”を受け入れる学校として、規模は小さいながら芸術学校の存在は非常に重要であると考える。

早稲田大学と言えば、社会的に有名な学部や大学院教育、もしくは中等学校・高等学校教育を連想される方が多い。しかしながら、その早稲田大学の中にあり、比して小規模ながらも“向学心のある人材”を対象に専門教育を100年以上にわたり続けてきた意義は大きい。

現在までも、電気、機械、会計、映像そして建築と都市など、授業で取り扱う分野は変遷を辿ったが、今後も世の中の動向を取り入れながら、教育理念に沿って学校運営に取り組んでいただく事を望む。

特に重点目標において学校が課題としていることを端的に掲げている。解決に時間が掛かり、また、解決が困難であるものも含まれるが、具体的な成果が出るよう今後も進めていただく事を期待する。

評価については、学校をよく知る“学校関係者評価”であることもあり、評価項目ごとに各委員の評価点が揃う項目も少なくなかった。このことから、学校のストロングポイントとウィークポイントがはっきりしているということもできる。今回の評価を機に、ウィークポイントを克服される事を望む。

また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、委員が一堂に会する場が無く、学校から直接説明を受ける機会がなかった。その割には事前資料が比較的少なかったと感じている。また、評価シートが入力しづらいという意見もあった。来年の評価に向けて改善をしていただきたい。

1. 学校の教育理念(AA Idea)

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・シンプルによくまとまった高い理念と評価できる。
- ・今後も世の中の動向を取り入れつつ、学校の教育理念に沿った学校運営を行う事を期待する。
- ・専門教育として個人の能力を伸ばし、総合芸術としての建築のあり方を掲げる教育理念は素晴らしく、評価できる。

2. 学校評価の基本方針

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・適切にまとめられた基本方針であると評価できる。
- ・学校評価が内規などのルールに基づき、体系的に行われている事がわかる。
- ・学校関係者評価は“今回が初めて”という事だが、今回見つけた評価運営上の改善点は次年度以降に活かして欲しい。
- ・評価の透明性や公表性はHP等で十分になされている。

3. 学校の重点目標

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・適切にまとめられた重点目標であると評価できる。
- ・現在学校が抱えている問題や、乗り越えるべき事、力を入れるべき事がコンパクトにまとめられている印象を受ける。
- ・これらの目標の達成が学校運営をより良い方向に導く事を期待する。
- ・社会の動向に相応しいカリキュラム構成に取り組んでいる。

4. 評価項目

(1) 教育理念・目的・人材育成型

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.5

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
学校における職業教育の特色は何か	3.7
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか	3.0
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.0

■委員からの評価・意見

●「学校の理念・目的・育成型は定められているか」

- ・適切に実施できていると評価できる。
- ・社会で求められている建築家を育成するため文理融合の分野を広げた授業、アッセンブル特論は評価できる。

●「学校における職業教育の特色は何か」

- ・適切に実施できていると評価できる。
- ・社会に貢献すべき倫理観を持った職業意識を育成しようとしている。

●「学校のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」

- ・適切に実施できていると評価している。
- ・社会は多様化し、より複雑化している。こうした状況を踏まえて技術だけではない、より柔軟な姿勢を持つ人材が望まれており、そうした人材の育成に取り組んでいる。
- ・Waseda150を根拠とするよりも、芸術学校独自の社会のニーズに対する構想を示される

方がよいと考える。

●「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか」

- ・学校の教育レベルと卒業生の実力は高いと感じるのに、業界内での評価はそれに見合うような高評価を得られていないと感じる。
- ・比較的首都圏に限られており、全国レベルでの周知には至っていないように思える。

●「各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」

- ・業界ニーズに対応できるよう幅広いカリキュラムを組めていると思う。
- ・変動する社会状況に柔軟性・俊敏性を持って対応できるよう望む。
- ・一般的に建築業界が求めているのは効率的に仕事ができる人材であろう。そうした方向とはやや異なるのではないかと思う。

(2) 学校運営

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4.0
人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4.0
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.7
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「学校の理念・目的・育成像は定められているか」

- ・適切に実施できていると評価できる。
- ・目的等に沿った人事がなされている。

●「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」

- ・適切に実施できていると評価できる。
- ・オリエンテーションや建築セミナー、建築見学等の事業計画が策定されている。

●「運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか」

- ・適切に実施できていると評価できる。

- ・トップの意思決定が人事、教育に反映されている。
- 「人事、給与に関する規程等は整備されているか」
 - ・適切に実施できていると評価できる。
- 「教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか」
 - ・適切に実施できていると評価できる。
- 「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」
 - ・広報活動の強化が望まれる。
- 「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」
 - ・広報活動の強化が望まれる。
- 「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」
 - ・適切に実施できていると評価できる。

(3) 教育活動

①目標の設定等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4.0
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.0

■委員からの評価・意見

- ・項目を通して、非常によく出来ていると評価している。
- ・項目を通して、十分実施されていると評価している。

②教育方法・評価等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」

- ・芸術学校のカリキュラムは、学校の目指す方向と学生・社会の要望が高い次元で融合したカリキュラムであると評価している。
- ・受験資格取得等の段階的教育がなされている。

●「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」

- ・アセンブル特論に見られる幅広い総合学修が実施されている。

●「関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか」

- ・各専門領域との講師陣の強化は評価できる。

- 「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」
 - ・座学と実習のバランスは評価できる。
- 「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」
 - ・外部講師の充実及び意見交換が行われている。
- 「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」
 - ・成績の透明化が行われている。
- ・「②教育方法・評価等」の項を通して、適切な運営・実施が行われていると評価できる。

③資格試験

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4.0

■委員からの評価・意見

- ・適切な運営・実施が行われていると評価できる。
- ・体系的なカリキュラム構成となっている。

④教職員

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4.0
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4.0
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4.0
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」
 - ・各分野において専門的教員の確保はできている。
 - 「関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」
 - ・各分野において専門的教員の確保はできている。
 - 「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか」
 - ・研修プログラムなどが用意されている。
 - 「職員の能力開発のための研修等が行われているか」
 - ・早稲田大学との連携が評価できる。
- ・「④教職員」の項を通して、適切な運営・実施が行われていると評価できる。

(4) 学修効果

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.1

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
就職率の向上が図られているか	3.3
資格取得率の向上が図られているか	3.3
退学率の低減が図られているか	3.0
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.7

■委員からの評価・意見

●「就職率の向上が図られているか」

- ・掲示板・WEBでの紹介など就職率の向上を図ろうとする努力が感じられ、評価できる。
- ・早稲田大学との連携がされている。

●「資格取得率の向上が図られているか」

- ・カリキュラムの中に資格取得に必要な教育が適切に含まれていると感じられ、評価できる。
- ・際立った特徴は見られない。

●「退学率の低減が図られているか」

- ・本校が長く抱えている課題だと感じている。今後もぜひきめ細やかな対応を望む。
- ・高等学校を卒業した直後の学生や、大学とのダブルスクール生、社会人として通っている学生など多種多様な学生がいるため、対応が難しいが、今後も丹念に面談を行うなど、退学率低減に向けた取り組みに期待する。
- ・入学を検討する段階で意思決定に役立つ情報提供があると退学率の低減に貢献すると思われる。

●「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

- ・稲芽会としても不十分と感じているので協力できれば、と考えている。
- ・卒業後の進路先や追跡が難しそうである。
- ・追跡できる情報の蓄積手法の検討を希望する。

(5) 学生支援

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.5

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7
学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.7
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7
卒業生への支援体制はあるか	3.3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0
大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.7
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	2.3

■委員からの評価・意見

- 「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」
 - ・早稲田大学との連携強化が望まれる。
- 「学生相談に関する体制は整備されているか」
 - ・適切な運営・実施が行われていると評価できる。
- 「学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」
 - ・支援機構などの紹介で早稲田大学との連携強化が望まれる。
- 「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」
 - ・適切な運営・実施が行われていると評価できる。

- ・早稲田大学との連携強化が望まれる。

●「卒業生への支援体制はあるか」

- ・大学の組織も含め同窓会等の支援体制はできていると思う。ただ卒業後の関心は一部を除いて低いと感じているので稲芽会としても参加のメリット等情報発信をしていければと考えている。
- ・卒後の追跡調査や同窓会などの強化が望まれる。

●「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」

- ・学校の性格・成り立ちからとてもよく出来ていると評価できる。
- ・教室の確保や使用など整備されている。

●「大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか」

- ・卒業生の大学院への推薦制度など、適切に運用されていると評価できる。
- ・早稲田大学教員との連携がされている。

●「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか」

- ・卒業後は学校との関係が希薄になりがちなので稲芽会としても何らかの方策が必要ではないかと感じている。
- ・卒後の同窓会等の支援の強化が望まれる。
- ・前項の評価項目「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」と合わせて今後の検討を希望する。

(6) 教育環境

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4.0
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.3
防災に対する体制は整備されているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」

- ・大学の設備に加え専用に使える設備も充実し、よく整備されていると評価できる。
- ・早稲田大学との連携により整備されている。

●「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか」

- ・年2回の建築セミナーは、軽井沢セミナーハウスや学校外施設といったキャンパス外の施設を利用するため、自主的な参加となっているが、できるだけ多くの学生に来てもらえるような工夫を図るよう期待する。
- ・社会人の立場を考えると限界があると思う。
- ・学生および企業のインターンシップ、海外研修にかかるニーズ把握を希望する。

●「防災に対する体制は整備されているか」

- ・適切に運用されていると評価できる。
- ・早稲田大学との連携がなされている。
- ・防災とは少し離れるが、各専用スタジオの整理・整頓は学生自治に委ねるべきとは思いますが、ある程度学校側が乱雑にならないよう誘導した方が良いと感じている。

(7) 学生の受入れ募集

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3.3
学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.3
学生納付金は妥当なものとなっているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか」
 - ・対象となる機関の選択が難しいと思うが、次年度以降も継続できるよう期待する。
 - ・広報活動の強化が望まれる。
- 「学生募集活動は、適正に行われているか」
 - ・適切に運用されていると評価できる。
 - ・学校案内等パンフレットの充実が評価できる。
- 「学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか」
 - ・応募する学生から見ると、入学判断に影響する情報の一つと考えられるので、きめ細かい提供ができるよう期待する。
 - ・具体的な職種についての説明がなされているか不明。
- 「学生納付金は妥当なものとなっているか」
 - ・適切に運用されていると評価できる。
 - ・広報で行われている。

(8) 法令等の遵守

- ・ 評価結果：適切である。
- ・ この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0、4.0、4.0
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0、4.0、4.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0、4.0、4.0
自己評価結果を公開しているか	4.0、4.0、4.0

■委員からの評価・意見

- 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」
 - ・ 規約の遵守が行われていれば問題ない。
- 「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」
 - ・ 規約の遵守が行われていれば問題ない。
- 「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」
 - ・ 外部有識者を含めた学校評価委員会を設置している。
- 「自己評価結果を公開しているか」
 - ・ HP等で公開されている。
- ・ 「(8) 法令等の遵守」の項を通して、適切な運営・実施が行われていると評価できる。

(9) 社会貢献・地域貢献

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」

- ・社会一般との繋がりには考慮していると評価できる。特に、66号館（シルマンホール）の明治通りに面したショーウインドーは、学校の紹介だけでなく地域との繋がりを考えたよい試みであると感じている。
- ・卒業展など学外での成果が公開できている。
- ・いずれも広報活動の拡充によりさらに充実すると考えられる。

●「地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか」

- ・地域との繋がりを積極的に考えた施策は単独ではなく大学と協働でおこなうようにすべきと考える。
- ・「建築講演会」など一般に公開できる講座を開催している。

(10) 国際交流

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.5

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4.0
国際交流に取組んでいるか	3.0

■委員からの評価・意見

- 「学修成果が国内外で評価される取組を行っているか」
 - ・課題を国際コンペへ出展する試みは今後も継続してほしいと考えている。
 - ・国際コンペへの参加や成果が評価できる。
- 「国際交流に取組んでいるか」
 - ・WEB英語ページが日本語ページと同等の内容・更新となるよう期待する。
 - ・早稲田大学との連携強化が望まれる。